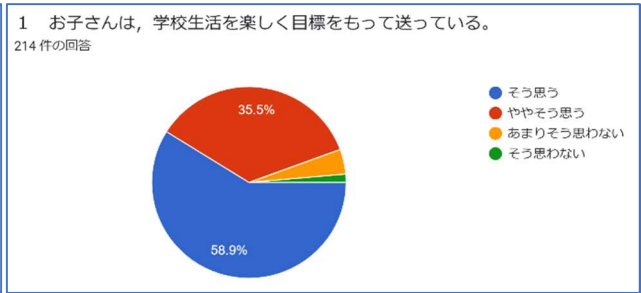
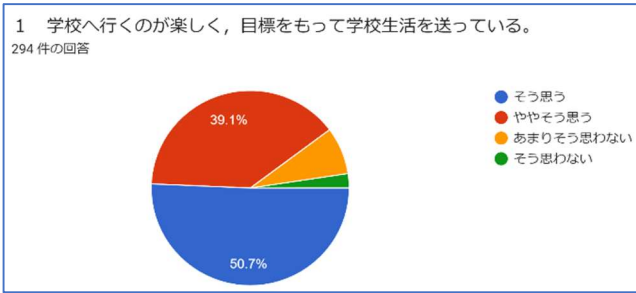
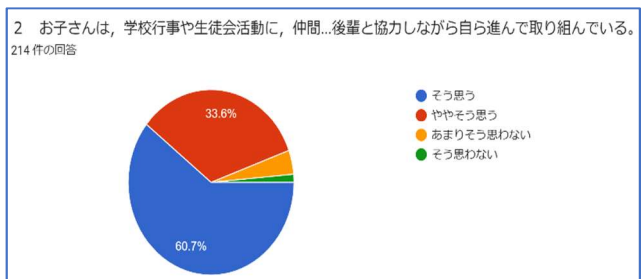
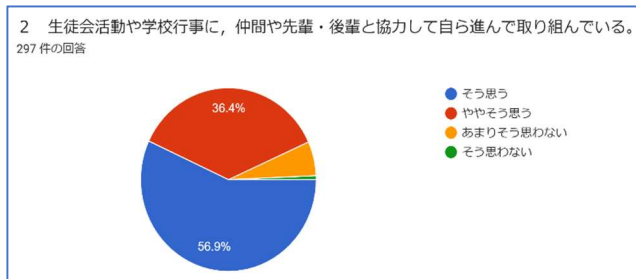


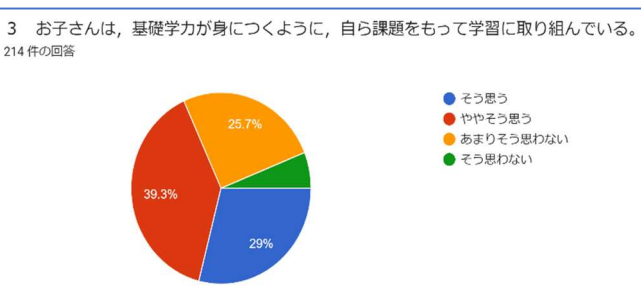
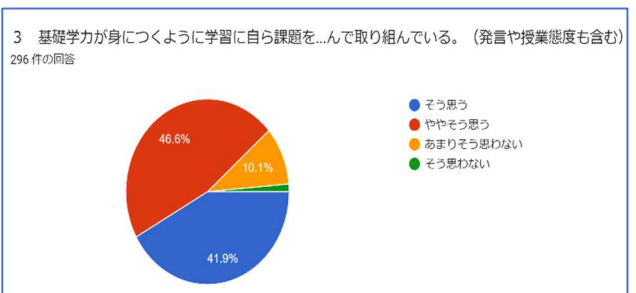
1 学校が楽しく、目標を持って学校生活を送っているか



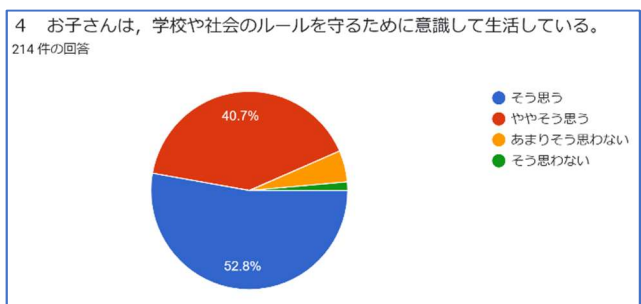
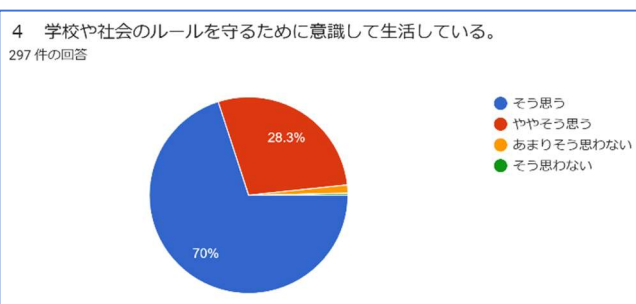
2 仲間と協力しながら自ら進んで取り組んでいるか



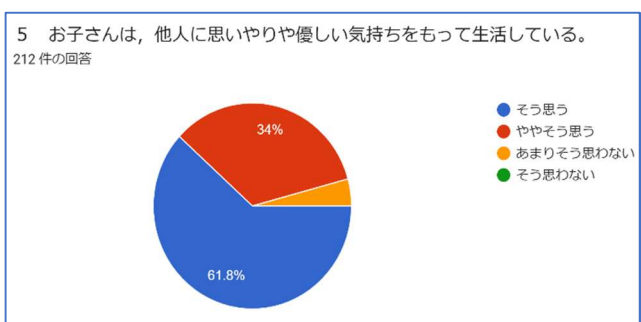
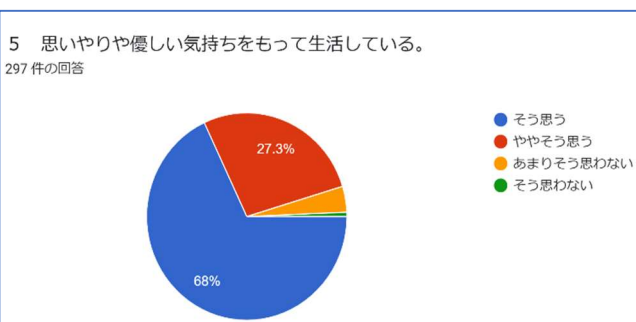
3 自ら課題を持って学習に取り組んでいるか



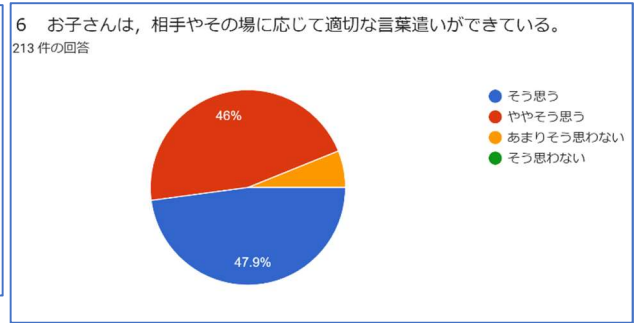
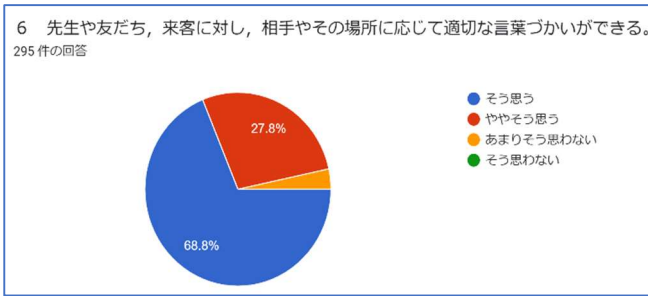
4 学校や社会のルールを守って生活しているか



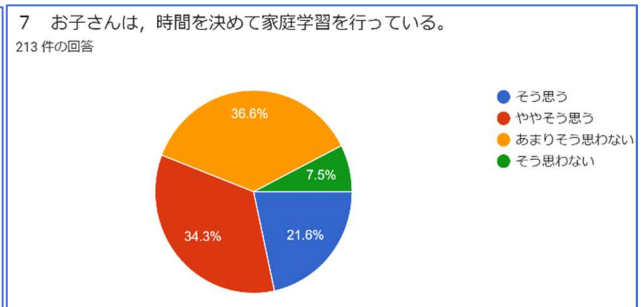
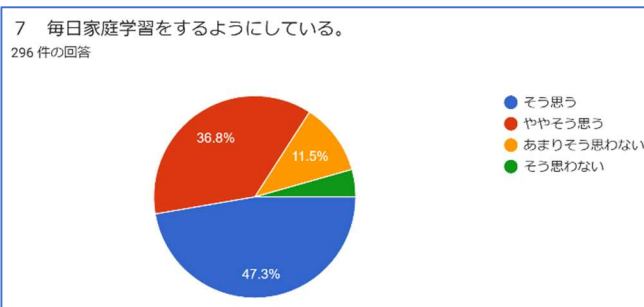
5 思いやりや優しい気持ちを持って生活しているか



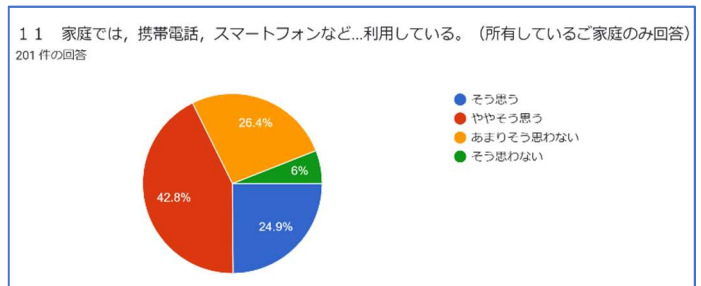
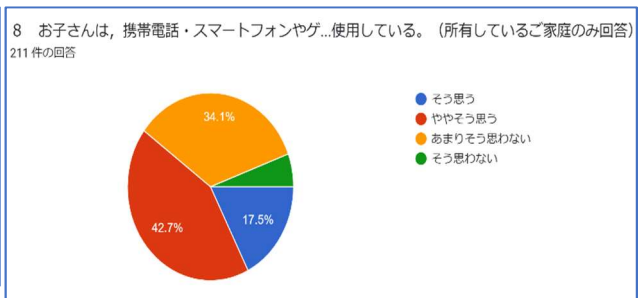
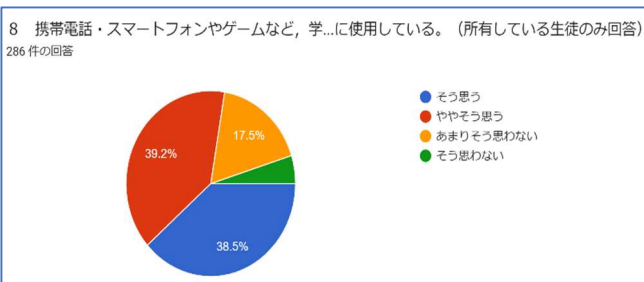
6 相手やその場に応じて適切な言葉遣いができるか



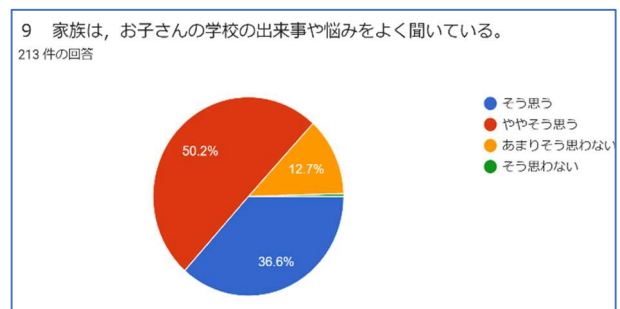
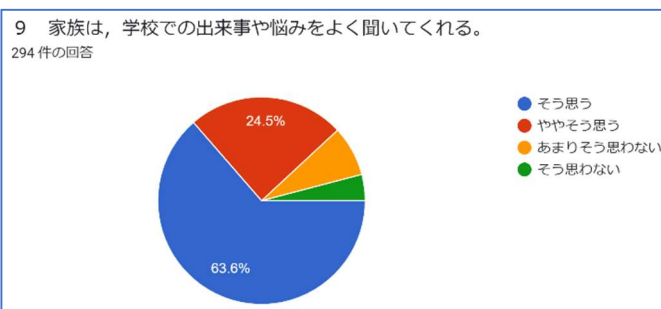
7 毎日、家庭学習をしているか



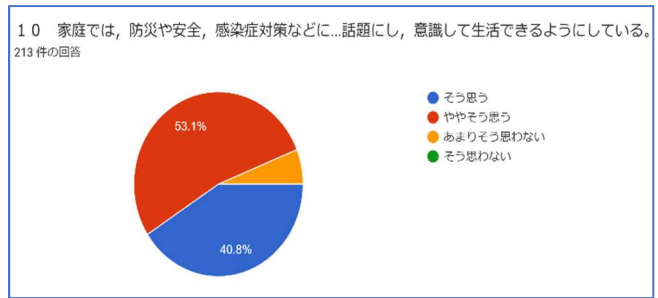
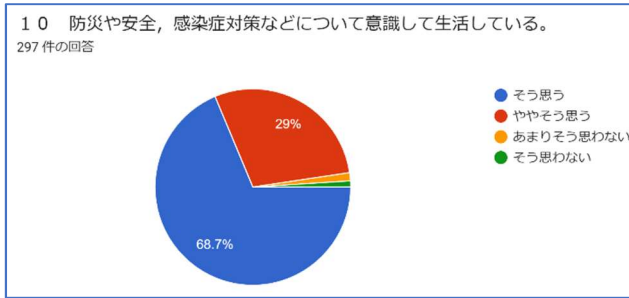
8 携帯電話やスマホ等を適切に使用しているか（8は時間について、11は決まり事について）



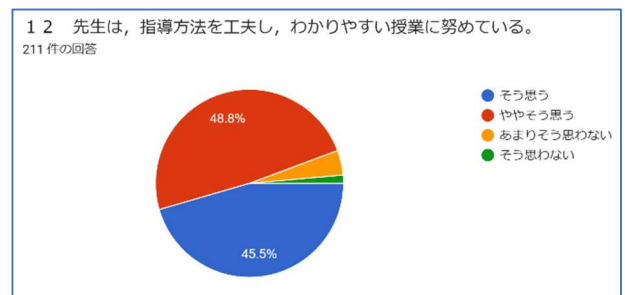
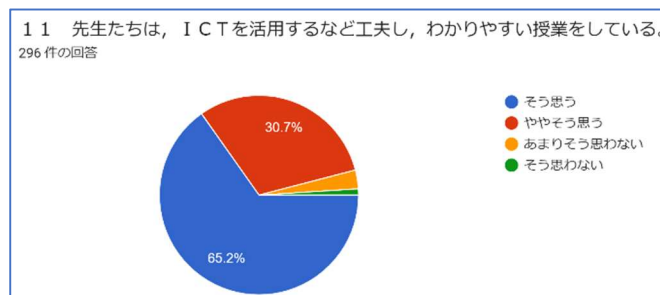
9 家族は、学校での悩みを聞いてくれるか



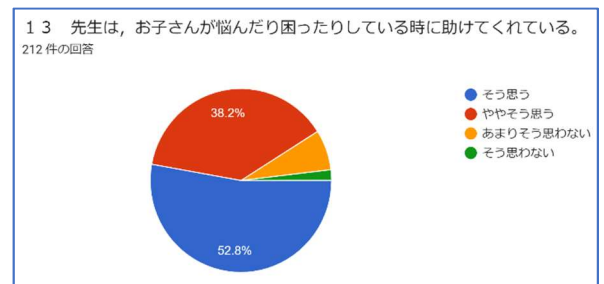
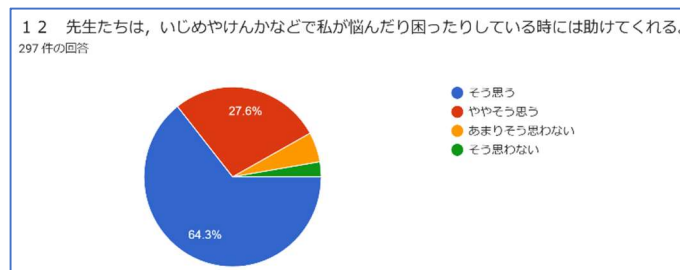
10 防災や安全, 感染症対策などについて, 意識して生活しているか



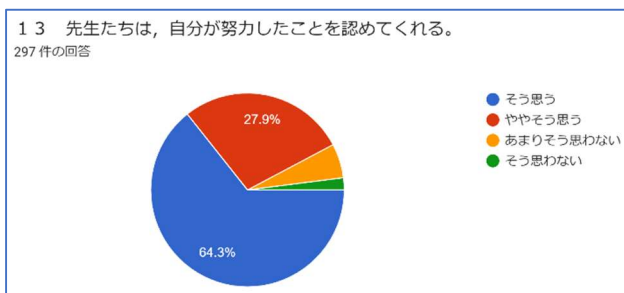
11 先生たちは, わかりやすい授業をしているか



12 先生たちは, いじめやけんか等で悩んでいたたり困っていたりするときに助けてくれるか

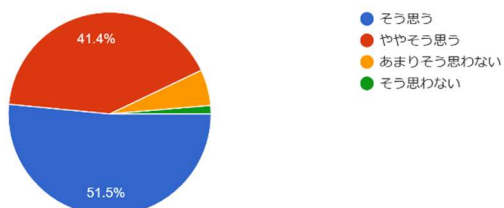


13 先生たちは, 自分がしたことを認めてくれるか

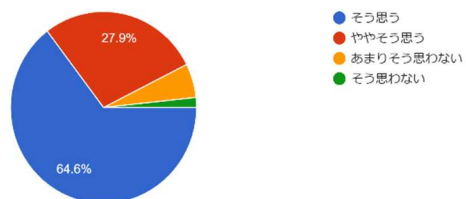


生徒のみ：基本的な学習態度について

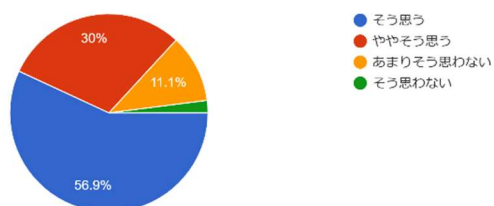
14 毎時間の授業の目標やねらいをよく理解して授業を受けている。
297 件の回答



15 授業の中で自分の言葉で考えを伝えたり、友だち同士で聞きあったりしている。
297 件の回答

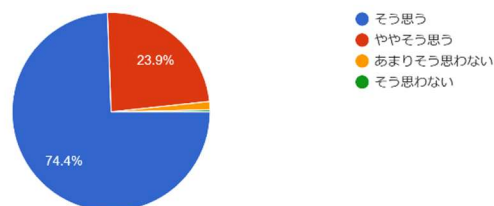


16 課題や提出物など、期日を守って提出している。
297 件の回答

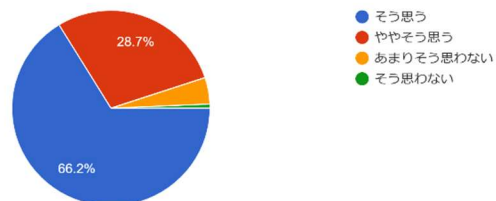


生徒のみ：基本的な生活習慣について

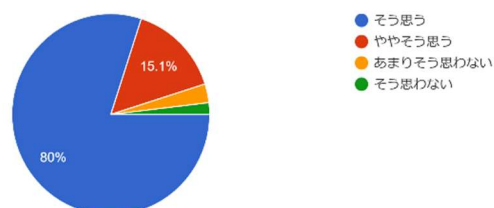
17 清掃の時間はしっかりと活動している。
297 件の回答



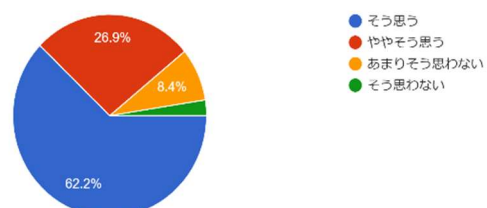
18 自ら進んで相手に伝わるようにあいさつをしている。
296 件の回答



19 部活動に積極的に参加している。(入部している生徒のみ回答)
265 件の回答

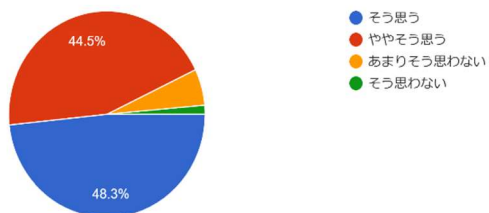


20 学校からのたよりや通知を家の人にきちんと見せている。
320 件の回答

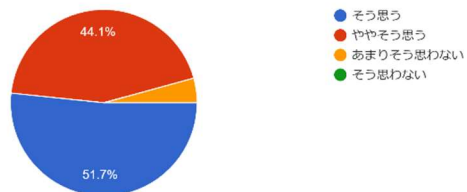


保護者のみ：一般

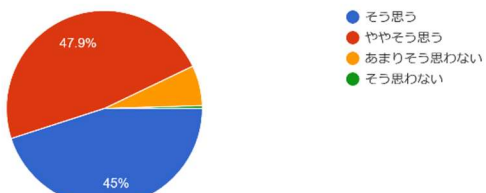
14 学校は、基礎基本が身につくような授業をしている。
211件の回答



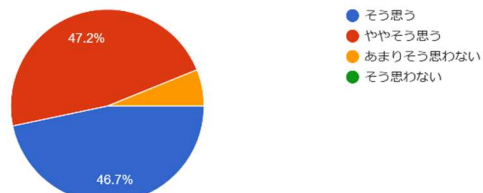
15 学校は、防災教育や情報モラル教育など安全についての教育に取り組んでいる。
211件の回答



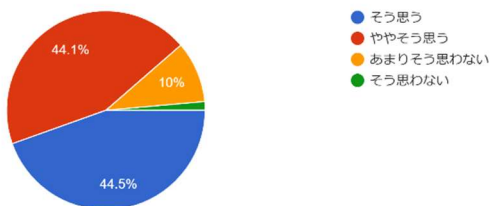
16 学校は、地域の教育資源を活用した教育を行っている。
211件の回答



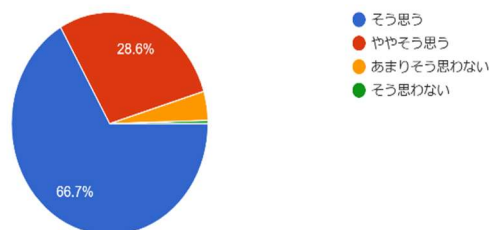
17 学校は、命や食の大切さについての教育や指導を行っている。
212件の回答



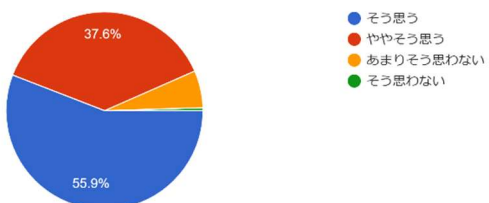
18 学校は、相談しやすく保護者の声や願いに応じてくれる。
211件の回答



19 学校は、各種たよりの発行など家庭への連絡や情報提供を行っている。
213件の回答



20 通信表の内容は、わかりやすく工夫されている。
213件の回答



項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	参加人数	割る数	点数計	平均点	4段階 評価	5段階 評価	生徒	保護者	考察と来年度へ向けて		
2 学校経営に関すること	⑤ 保健管理	11 健康診断・心身の健康相談の他健康教育指導を行い、生徒の健康管理能力の育成を図っている。	22	9	0	0	0	31	31	115	3.71	3.8	4.8				【考察】 ・心の問題を抱える生徒やアレルギーの生徒に対する対応等、養護教諭や栄養教諭を中心に健康に関する意識は高い。コロナ禍で「ランチルーム指導」ができない中でも、給食時のミニ給食指導が実践されている。 ・部活動に関しては、方法や時間が制限される中で活動だが、生徒の満足度は高く効果的な練習ができていると考える。	
			88	27	0	0	0											
		12 食の安全と、適切なアレルギー対応に努めるとともに、健康・安全と食教育の推進に努めている。	22	9	0	0	0	31	31	115	3.71	3.8	4.8		46.7	6.1	【来年度に向けて】 ・来年度から今までの感染症対策が変わり、社会の要請に順応した生活にもどることが想定されるが、コロナ感染は治まったわけではないので、バランスを取りながら高い危機管理意識を持続させて学校生活を維持していきたい。 ・地域への部活動の移行が、R7年度をめどに準備が進む中、あらためて「部活動基本方針」を、4月の職員会議で確認し、年間通して徹底するとともに、生徒・保護者に「部活動ガイドライン」を周知し、同じベクトルで地域移行を進めていきたい。	
	88		27	0	0	0												
	13 部活動の基本方針を基に、新しい生活様式の中で効果を上げる部活動指導の定着と工夫に努めている。	13	14	2	0	1	30	29	98	3.38	3.4	4.3		78.3	3.3			
		52	42	4	0	0												
	⑥ 心の育成	14 あいさつ、授業規律など基本的な生活習慣の育成を通して、豊かな感性を育てている。	10	14	6	1	0	31	31	95	3.06	3.1	3.9					【考察】 ・「心の育成」については、昨年よりもポイントが下がっている。「あいさつ」に関しては、生徒会でも取り組み、地域からも引き続き評価されているが、伝統が失われつつあるという生徒の声も上がっている。清掃活動や授業規律に関しては、きちんと指導する必要があると感じている。 ・SNSへの関わりについては、昨年度と数値的には同様だが、生徒指導上の問題もSNS関連が発端となるケースが多く、より一層の指導の工夫が必要である。携帯やスマホなどを適切に使用していないと回答した生徒は21.5%、保護者は39.3%であり、SNSの使い方や情報モラル教育は本校の大きな課題である。
			40	42	12	1	0											
		15 新しい生活様式で行う自治的な生徒会活動と異学年交流の工夫をし、伝統を受け継ぎ創る意識の育成と継承を図っている。	11	15	4	0	1	31	30	97	3.23	3.3	4.1		57	60.1	6.7	5.6
44			45	8	0	0												
16 SNSへの関わり方等、情報モラル教育や心の教育の充実に努めている。		9	16	5	0	1	31	30	94	3.13	3.2	4.0		38.5	17.5	22.4	39.8	・SNSに関しては、保護者の記述からも「家庭で指導が及ばない」という困り感が伝わってくる。なぜSNSを長時間使用してはいけないのか、ゲーム依存症になるとどのような弊害があるのか、情報モラルを守らない場合はどうなるのか実例を挙げて自分事として捉えさせたい。また、学活や道徳、各教科に「情報モラル教育」横断的に位置づけ、全校体制で取り組んでいく。集会等の機会を捉えての指導や授業参観、PTA学習会等で保護者とともに学ぶ機会を設け、危機感を共有してもらうようにする。
		36	48	10	0	0												
⑦ 特別支援教育	17 教職員の共通理解のもとで特別支援教育の体制が整えられ、計画的、効果的な指導を行っている。	8	19	3	0	1	31	30	95	3.17	3.2	4.0					【考察】 ・特別支援教育については、葦崎市支援員の先生方に積極的に関わっていただき、一人一人の生徒の特性を理解した上で指導することが可能になっている。特に、3年生の数学を中心に、夏季休業中の「特別講座」を手厚く指導していただいた。日頃から一人の生徒に対して複数の職員が関わり、手厚い支援や指導を心がけてきた。 ・不登校対策として、「かがやき教室」やSC、医療機関等との連携が進み、配慮が必要な生徒の支援に協力していただいている。不登校の生徒に対して、第一に考えることは、本人の居場所がどこにあるかということである。不登校部会で確認し、全体への周知を図るとともに、個々のケースにあった対応を模索している。 ・不登校の生徒に対して、担任や人間関係のとれる職員が、週1を基本に家庭訪問や連絡をとりあって対応している。負担感はないが、できる限り複数で対応し心理的なバックアップ体制を取る中で、組織として持続可能なサポートを行う。	
		32	57	6	0	0												
	18 かがやき教室や関係諸機関との連携を強化し、根気よく不登校生徒等の指導を行っている。	10	16	3	0	2	31	29	100	3.45	3.5	4.4					【来年度に向けて】 ・特別支援校内委員会を充実させ、一人一人の生徒の状況を把握し、学習面や生活面での指導をどのように進めていくのか具体的な対応策を検討する。 ・特別支援が必要な生徒に対して、進路選択などを念頭に置きながら、3年間を見通した個別の教育計画を立て、全職員が共通理解のもとサポートにあたるようにする。 ・「特別な支援を要する生徒」は、普通学級にも存在するという認識のもと、個々の生徒の状況から具体的なサポートを生徒指導部会や不登校部会を中心として、全職員間で確認し合いながら進める。 ・教室で授業を受けることができず別室で学習している生徒をきちんと把握し、長い時間放置することがないように学年職員間で連携を図る。基本的に学年で対応するが、手が足りない場合は、学年や教科を超えて応援体制をとり、別室の生徒に関わるように工夫する。	
		27	67	6	0	0												
⑧ 研修	19 本校の教育課題や生徒の実態に応じた校内研究が企画され、協働して意欲的、積極的に取り組んでいる。	15	14	1	0	1	31	30	104	3.47	3.5	4.4					【考察】 ・校内研では、ベテランから若手まで活発な協議が行われ、全教職員が共通理解のもと、研究主題に沿った授業改善を行うことができた。 【来年度に向けて】 ・「研修」については、「学び続ける教師」を念頭に、職員自ら意欲的に研修の機会を設定し、参加できるよう体制を整備するとともに、教職員や生徒への還元を奨励していく。 ・今年度のように、校内研では実際の授業を参観し、それをもとに全職員で授業の工夫・改善に取り組みたい。外部組織での研修はもちろんのこと、OJTを通して、若手やミドルリーダー等それぞれのキャリアステージに応じた研修を積み、教員の資質向上を目指していきたい。	
		60	42	2	0	0												

項目	No.	具体的な評価内容	A	B	C	D	E	参加人数	割る数	点数計	平均点	4段階 評価	5段階 評価	生徒	保護者	考察と来年度へ向けて	
3 学習指導に関する事	⑨ 学習指導	20 主体的・協働的な学びを通して、思考力・判断力・表現力(聴く力・対話力)の育成に努めている。	15	14	2	0	0	31	31	106	3.42	3.5	4.4	64.5	7.4	【考察】 ・「やまなしスタンダード」を意識しながら、全教科でタブレットを活用した授業改善が進んだ。ICTを積極的に活用することで、よりわかりやすい授業を心がけた。 ・学習指導の項目については、いずれの項目も概ね満足できる数値となっているが、「家庭学習の定着」については、生徒の自己評価と比較すると保護者の評価はかなり低い。家庭学習に取り組む姿勢や時間について、「満足」とする認識に差があるといえる。 【来年度に向けて】 ・今年度はICTを活用しての授業づくりが大きく前進した。今後も教員が十分にICT機器を活用できるよう、校内研等で支援し、教職員が学ぶ機会をつくり、授業スキルを高めていきたい。 ・生徒は、毎日の授業に真面目に取り組んでいるが、基礎・基本の定着にはハードルが高い。家庭学習のあり方も含めて、①各教科ごと年度当初に学習方法を確認する②生徒どうしの「自主学习ノート」の交流を継続して実践する③タブレットの持ち帰りを効果的に進め、学習ログが見える形でのモチベーションを高める④自己肯定感を高めるアドバイスを積極的に仕組む等、自力で課題解決できる力をつけることを目指す。 ・文化芸術活動や読書、体験活動等の意義をもう一度職員間で再確認し、「朝の時間」等を有効に活動する。	
			60	42	4	0	0										
		21 授業の目標を明確にし、見直し振り返る授業を行い、基礎基本の習得と定着を図るために授業の工夫改善に努めている。	19	11	1	0	0	31	31	100	3.23	3.3	4.1	51.5	7.1		
			56	32	12	0	0										
22 家庭学習の定着と充実を図るため、自主学习ノートの工夫と週末課題の実施に努めている。	23 道徳の授業をはじめ、GIGAスクールを生かし、ICTを活用した授業を推進し、どの生徒にもわかる授業の工夫改善に努めている。	10	16	3	0	2	31	29	100	3.45	3.5	4.4	47.3	21.6			
		65	32	3	0	0											
23		12	16	1	0	2	31	29	98	3.38	3.4	4.3					
		48	48	2	0	0											
4 生徒指導に関する事	⑩ 生徒指導	24 生徒指導目標が設定され、生徒指導(いじめ・問題行動・不登校)の組織・分担など、迅速で適切な生徒指導体制が整備されている。	10	9	11	1	0	31	31	90	2.90	3	3.8	64.3	52.8	【考察】 ・「生活アンケート」や面談の実施によって、問題点を見だし、迅速に対応しており、生徒と保護者の回答を見るとAの%に差はあるが、BCの回答はほぼ10%であり、理解を得ているものと思われる。 ・「適切な指導・支援を根気よく行う」項目は昨年度とほぼ同じであり、一人一人の生徒の特性を理解して指導に当たったことや、問題を抱えた生徒に対して、担任に任せるのではなく、複数の教員が親身になって指導助言を行ったことが効果的であった。 ・一部の生徒指導の案件について、全体で共有できなかったという意見もあるので、全職員が同一歩調で生徒指導に当たることができるように留意したい。 【来年度に向けて】 ・学校生活の中で生じる問題よりも、SNSに起因する問題、そして家庭環境に起因する問題が多いと感じている。生徒指導部会や不登校対策部会を中心に、少しでも生徒一人一人が安心して生活し、心を癒やすことができる環境を作れるよう、職員間の共通理解を行うとともに、スクールカウンセラーや医療機関等への相談を促したり、「かがやき教室」の利用含めて環境を変えたりしながら、一人でも相談できる人を増やせるような体制を目指していく。同時に有効な指導を行うために、組織での役割を分担することも検討していく。 ・休み時間や清掃活動の様子など、授業中では見られない生徒同士の様子をよく観察し、人間関係をつかむことが必要である。また、学校外でのSNSを通じた生徒間の問題も見逃さないように、生活ノートや面談等のあらゆる情報収集ができるようアンテナを高く広げたい。「SOSの出し方」について学び、自らが困ったときには大人に相談できるようなセーフティネット体制を築いていく。 ・生徒指導関連の事案が生じた場合には、組織として対応することを徹底する。なお、対応すべき事案の際には、迅速に校長に報告するとともに、複数の職員で同席し、事態を共有しながら指導していく。	
			40	27	22	1	0										
		25 生徒一人一人の特性を理解し、生徒に伝わる適切な指導・支援を根気よく行うことより、自己肯定感を高める指導をしている。	10	17	3	0	1	31	30	97	3.23	3.3	4.1				
			40	51	6	0	0										
5 保護者・地域社会との連携に関する事	⑪ 保護者・地域との連携	26 保護者と連携して教育活動を進めるよう、学校ブログ・学年学級たより等で情報発信と充実にも努めている。	14	16	1	0	0	31	31	106	3.42	3.5	4.4	62.5	66.7	【考察】 ・学校だよりや学級・学年だより、学校ブログなど、定期的に学校や生徒の様子を保護者に情報提供できた。 ・コロナ禍での制限はあったが、「食農体験」や「職場体験」、「合唱祭」、「体育のダンス指導」等、地域の方に講師としてご指導いただいております。地域の教育資源の活用については、ほぼ例年通り進めることができた。 ・小中連携では、本校と甘利小・北西小の校長が「三校会」で情報交換を行ったり、小学校に出向いて出前授業(国語・理科・数学)を行ったりしている。また、児童を西鐘祭や合唱祭に招待するなどの交流はできなかったが、新入生説明会では児童・保護者が参加し、6年生からの質問や相談に中学1年生が紙面で回答する機会を設けることで、4月からの中学校生活の準備とした。 【来年度に向けて】 ・各たよりや学校ブログ等により、日常的に保護者や地域に情報発信をすることで、学校運営や生徒の状況について情報を共有しておくことは、生徒の成長をともに支えるという視点から重要である。今後も有効に活用し、学校の教育活動等に対する理解を促していきたい。 ・大きなイベントでは、その教育効果について潜在的に保護者も生徒も期待を持っている。頑張ったことがむくわれるよう評価すべきと考える。 ・小中連携において、葦崎市教研、峡北教育研究会等で積極的に情報交換を行い、発達段階を踏まえた指導を連携するとともに、小学校6年生が中学校の生活を知る機会として、西鐘祭や合唱祭等への招待やオンラインでの交流など計画し、中学校生活への期待が高まるように工夫していきたい。	
			56	48	2	0	0										
		27 地域の教育資源を活用するなど、地域と共にある学校を推進している。	9	17	5	0	0	31	31	97	3.13	3.2	4.0	45	7.1		
			36	51	10	0	0										
		28 小中連携を意識し、既知の知識を生かした学習や生活指導の継続を図っている。		5	15	10	0	1	31	30	85	2.83	2.9	3.6			
				20	45	20	0	0									
6 施設・設備に関する事	⑫ 施設・設備	29 学校施設設備は、安全な生活環境やふさわしい学習環境として整備されている。	20	11	0	0	0	31	31	113	3.65	3.7	4.6			【考察】 ・一人1台タブレットの導入や地元企業からの数年にわたる電子黒板等を寄附していただき、ICT機器が大幅に整備された。学校も築14年が経過し、修繕が必要な部分が多くなってきているが、市へ要望を上げることで順次改善されてきている。また、FCUの問題についても対応していただき、来年度から普通教室にはエアコンが整備される予定である。 【来年度に向けて】 ・ICTの通信環境は、GIGA対応になっていないので、早急に対応するよう市に働きかけていきたい。 ・各自に貸与されたiPadや各教室の整備された電子黒板等の備品を大切に扱うことや、施設設備等を自分の家と同じように大切にすることを指導を継続していきたい。 ・安全点検の際に限らず学校内の施設設備の不具合に気づいた場合には、すぐに教頭に報告し、迅速に関係機関と対応することで破損を最小限にしていく。	
			80	33	0	0	0										
		30 教育活動に必要な設備や教科備品・部活動備品などが、整備・充実されている。	19	12	0	0	0	31	31	112	3.61	3.7	4.6				
			76	36	0	0	0										
7 その他	⑬ 生徒像	31 生徒は、楽しく目標をもって学校生活を送っている。	14	16	0	0	1	31	30	104	3.47	3.5	4.4	50.7	58.9	【考察】 ・今年度もコロナ禍であるが、大半の生徒・保護者が「楽しい学校生活を送っている」と回答している。職員の評価も「前向きに活動している生徒が多い」という認識である。 ・学校に足が向かない生徒もいるので、生徒の居場所を大切に、一人一人の生徒に寄り添った指導が望まれる。行動や言動に留意し、少しでもマイナスの変化が見られた時には、適切なアドバイスがとれるようアンテナを高く、関係者全員で幅広く対応したい。 【来年度に向けて】 ・生徒一人一人が、学習面・生活面・部活動等さまざまな場面で目標をもち、その達成に向けて取り組めるよう、機をとらえて適切に評価し、「自己肯定感」や「やり抜く力」を育みたい。	
			56	48	0	0	0										